

紫藤通信



今回60回という節目の文化祭であったが、先の東日本大震災の影響で一般公開が二十四日(土)のみ、後夜祭も中止となった。だが、生徒達とは与えられた環境の中、一生懸命に準備や練習を重ね文化祭当日を迎えた。

今年のテーマは、「Save one life, save the world。」二十三日(金)体育館に全校生徒が集まりオープニングがスタート。まずは、書道部が音楽に合わせてテーマを書き上げ、有志のダンスチームやマジックショー、各団体が歓声



発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
望月印刷株式会社

<http://homepage2.nifty.com/yamakoku/>

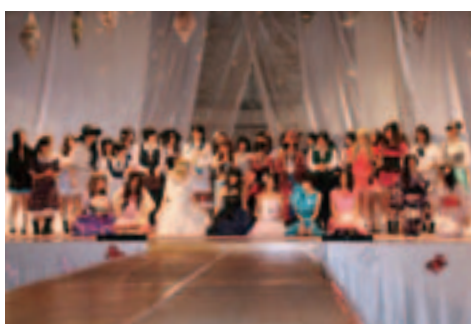
を浴び会場を盛り上げた。午後は、各団体準備に取り掛かり、文化祭実行委員 制作班による渾身の作品である歓迎門が校門に設置された。

体育館では、今年度から同好会になった鳴子連が、坂戸よさこいでも見せた力強い踊りを披露。吹奏楽団はポップス、コンクールで発表した曲を演奏。日々の練習に加え、ボイストレーニング、ランニングや腹筋運動を行い呼吸法を鍛え団員一丸となった曲を披露していた。三年四組英語総合コースの英語劇では、全員でダンスを混じえたアメリカの High School Musical を題材とし、適時アレンジを入れた英会話、ダンス・ストーリーをミックスさせた作品であった。軽音楽部は夏合宿で特訓した曲を各バンドが演奏、バトントワリング部は安定した華麗な演技で観客を魅了していた。ダンス部は、近年大会やコンテストで優勝するなど、力を付けてきたダンスで観客を虜にしていた。

ファッションショーでは、

二・三年で制作した作品を着て披露。特にスポットライトを浴び、自信に満ち溢れた表情で堂々と歩いている三年生の姿が印象的であった。

また、今回は生徒会が一年を通して行っている東日本大震災被害者支援募金活動を文化祭でも継続し、多くの方が募金していた。それぞれの団体から利益の5%を募金として充てた。



- 各賞の受賞は次の通り。**
- 紫藤賞 鳴子連
 - ステージ賞 ダンス部
 - 企画賞 書道部
 - 装飾賞 三二三
 - ポスター 北澤知佳(二一八)
 - 男装女装コンテスト
 - 女装一位 唐牛直大(三一)
 - 男装一位 新井那月(一一)



三月一日、未曾有の大震災が日本を襲った。「東日本大震災」その壊滅的な被害は、ここに語るまでもなく、衆知

のことである。問題は政府の対応に存在した。それは、人としての「実感」の欠落に由来する。彼等は、己れの眼で見、肌で感じることから始めたのだろうか▼明治二八年三月、正岡子規は結核の身を押し日清戦争に、記者として従軍した。小さく、未熟な国家が未曾有の対外戦争に突入した時、子規は濁くような思いでその「実感」を欲した。同五月一七日、帰国の船中で咯血。以後病床を出づること能わぬ子規は、本格的な短歌俳句の革新に乗り出す。その主眼は一点、「写生」つまり己れの眼で見、肌で感じたことを偽りなく表現することであった。それも文字通りの懸命さで……▼何ものにも代えがたい「実感」の重要性は、なにも文学・芸術の世界に限られたものではない。人として在る「生命」の基本として私たちの生活の中にこそ存在する。擬似的な体験や情報が氾濫する現代、私たちは目の事実を実感することなく、一体何を見ようというのか。

新任の先生紹介



(数学) 高橋 大輔先生

担当科目は、数学で、二年学年付として務めさせて頂いています。男子バスケット部の顧問をしています。バスケットボールについては、それほど詳しくなかったのですが、現在、勉強中です。



(数学) 宇野 浩行先生

社会人のスタートは、バブル隆盛期の銀行でした。その後、教員に転職しました。早いもので、もう四半世紀

になろうとしています。

これまで、主に都内の学校で受験指導の実績を上げてきました。国公立・早慶・医歯薬系での実数は数百人規模です。

そこで受験に際しての持論を一つだけ、「闇雲に、ガンバレ、ガンバレ」では合格しません。「現実的な目標設定と、スケジュール管理」です。



(理科) 阿高 友紀子先生

学校生活がスタートして、半年が過ぎようとしています。が、まだまだ緊張の連続です。しかし、楽しげなみなさんの姿を見ていると、自分も頑張ろうという気持ちになつてきます。みなさんのパワーをもらいながら、これからも頑張っていきたいと思えます。

私は皆さんにとっての『がつこう』が『築校』であることを望みます。沢山の人が一度に集まる場所の有難さが、これから社会に出て行くにつれ身に染みるようになってきます。学校生活が楽しく送れるように、遊ぶときは遊び、勉強するときは勉強して、生活にメリハリをつけて下さい。

一度しかない自分の人生です。妥協せず、一生懸命に取り組んで下さい。一生懸命生きていけば、辛い経験も近い将来笑い話になります。

私は、一生懸命頑張る人を応援したくて教員になりました。



(保健体育) 大坂 仁先生

現在、三年生の体育、二年生の剣道、一年生の保健を教えています。どの生徒も意欲を持って取り組んでくれています。皆さんの意欲に負けまいように私も努力し成長していきたいと思えます。

部活動は野球部を担当しています。

様々な活動を通して、生徒の皆さんとともに大きな夢の実現を目指し一歩一歩前進していきたいと思えます。よろしくお願ひします。



(音楽) 福士 紗希先生

今年度から音楽を担当することになりました。大学院では、オペラと宗教音楽を専門に研究していました。

音楽とは、読んで字の如く音を楽しむための学問です。

生徒たちに少しでも「楽しい」と思ってもらえる様に、先生も勉強の毎日です。



(英語) キース・マッカーシ

1先生

九月から、山村国際でお世話になることになりました。

英語は、どこが魅力的なんだろうか？英語を使って、多くの国の人々と相互理解できたら、素晴らしいと思えます。英語で心と心のキャッチボールをし、コミュニケーション能力を養ってほしいです。世界に目を向けた「国際人」を目指し、はばたいいていきたいと思えます。

Let's enjoy English!



(英語) 富岡 眞澄先生

義務教育を離れ自立と自律が求められるのが高校生活です。投げ出す事は簡単ですが、

それを拾い直す勇氣を持つて下さい。

過去は水に流すもの、未来は自分で切り開くもの。生徒の皆さんには、今自分が置かれている場所から前を向いて欲しいです。言葉を発するには、自ら扉を開かねばならないからです。

東京都内で七年間、教員をしていましたが、場所が違えど、私の信念は変わりません。この一年間を共に頑張つて行きましょう。



(業務) 阿部 信孝先生

四月より山村国際で、お世話になっております。

担当は業務です。私は県立高校で三十二年間努めてきました。その間野球部の監督、コーチとして三十年の間高校野球に係わってきました。

「継続は力なり」です。これまでの経験を生かして、学校の環境整備に努めて行きますので、どうぞ皆様よろしくお願ひします。



坂戸から元気に

坂 戸 よ き こ い



坂戸から日本を元気に

第十一回を迎えた今年の坂戸よきこい（八月二十日・二十一日）は、東日本大震災の復興支援を柱に、被災された各地域の物産展の実施や、電力事情に配慮して前夜祭や夜の開催を取りやめたりなど、工夫をしながら、「坂戸から日本を元気に」の気持ちを表現した、活気に満ちた二日間となった。

伝わった（？）元気！

今年の山村国際高校鳴子連の音楽と振り付けは、「風林火山」をテーマとし、今年も生徒たちによって振り付けが考えられた。

将来は部への昇格を見据えて、今年から同好会になった鳴子連は、夏や秋のお祭りシーズンには、有志も募って出場するのだが、思うように人数が増えず、メンバーは苦勞した。また、一つのを皆で作りに上げていくには、様々な苦勞もあり、それら乗り越えて演舞した鳴子連に会場の皆様から、「高校生らしく元気があってよかった」、「よくまとまっていた」、「人数の少なさが全く気にならないくらい堂々とした演舞だった」

という声を聞くことができた。鳴子連の生徒たちを最も感激させてくれたのは、演舞が終わって「ありがとうございました」と声を合わせて挨拶した際、「こちらこそ！」という言葉が沿道の方から返ってきた時だった。メンバー全員が、やってよかったなど思えた瞬間であった。



大旗（フラ）完成

結成八年目の鳴子連に念願の大旗が出来上がった。よきこいの魅力の一つである大旗は、本校後援会に援助していただき、本場高知の会社に製作を依頼した。完成した旗は、縦三・二m横四・八m、ポールの長さ最大六mの旗で、『埼玉・坂戸 山村国際高校』とはっきり読める。初代旗振りの二年生栗田君（川島西）は、「作っていただいたてありがとうございます。すばらしい旗が生きるように振り方を勉強して、観客の皆さんに感動を与えたい」と語って

くれた。

パントワリング部・放送部も活躍！

地元の高校として次の二つの部活も祭の成功に貢献した。「交通安全（安心・安全）パレード」（雨のため、演技は文化会館ホールで実施）に出演したパントワリング部は、全国大会常連の演技で、観客を魅了した。

演舞場の一つで、チーム紹介のアナウンスを担当したのは、本校放送部のメンバー。安心して聞けるアナウンスであったと好評だった。

リーダーから皆さんへお礼

三年 久保田成美（坂戸中）
東日本大震災後で、開催そのものが危ぶまれるような時期もありました。そのようなむずかしい状況の中で、実行委員会ははじめ、関係の皆様方のご尽力によって、こんなにすばらしい経験をさせていただけ心から感謝いたします。当日わざわざ会場でご声援いただいた皆様、ありがとうございました。

メンバーから一言

観客の人に、「良かったよ」と言ってもらえてうれ

しかったです。（一年女子）

●皆で踊っていると、団結して絆が深まりました。鳴子連メンバーでよかったです。（二年女子）

●準備の段階ではいろいろなことがあったけど、それをのりこえたから当日はとても楽しく感じました。（一年男子）

●見るのもいいけど、やっぱり参加した方がずっと楽しいです。（二年男子）

●新しい仲間と出会えてよかったです。（二年男子、三年女子）

●楽しくて自然に笑顔になりました。（一年女子）

●始めは恥ずかしかったけど踊っていくうちに楽しくなりました。（一年女子）





第56回

体育祭

「がんばろう日本!全力で挑め山国!」



六月三日(金)、第56回体育祭が挙行された。前日の雨で、グラウンド状況が心配されたが、当日は天候に恵まれ、また朝早くから生徒達が一生懸命にグラウンド整備を行い、時間通りに開会することができた。体育祭にかける山国生の意気込み、そして特に中心となる三年生の情熱は毎年心に響くものがある。

実行委員長、袋口さんののはつらつとした選手宣誓で戦いの火蓋が切って落とされた。最初の種目「二人三脚リレー」から始まり、一番の人気



種目である「白い恋人」では、真剣勝負の中にも笑いありで、大いに会場を盛り上げた。「学年対抗リレー」では、選ばれた精鋭達が健脚を競った。そして、午前中最後の種目は体育祭の「華」である「三年生ダンス」。後藤先生の指導の下、何度も何度も練習した演技をリズムカルな曲に合わせて、躍動感あるダンスを披露した。終了後は、笑顔溢れる表情で声援にこたえていた。

今年も、昼食時に応援合戦が行われ、各クラスが早くから準備を始めており、ダンスや衣装に凝るなど、工夫されたユニークな応援は例年以上の盛り上がりを見せた。

午後は、学年競技の「騎馬戦」「棒取り」「綱引き」が行われた。毎年、白熱する学年競技では、勝負にかける意地と意地のぶつかり合いで、手に汗握る好勝負が続き、盛況のうちに終了した。

まぶしい日差しの中で、全校生徒が汗を流し、一生懸命競技に演技に応援とみんなが力いっぱい頑張る姿には心が打たれた。多数の保護者の方にお越しいただき、大きく盛り上がった体育祭であった。

オープンキャンパスと 体験学習

七月九日(土)、今年のオープンキャンパスも天候に恵まれ多くの来場者で賑わい、二五の講座会場は、どれも参加者の真剣な姿が見られた。最初不安げに入場し、暫くするとアシスタントの先輩や指導してくださる先生の話術にほぐされ次第に笑顔での受講光景となり、「楽しかった。先輩達が優しかった」等の所感を残して講座を終えていた。一方、「学校説明会と入試の傾向と対策」講座は、公立高校の入試変化が大きく影響してか、過去最高の受講者数であった。



体験学習は、八月二四日(水)から二六日(金)の間に一二科目を三四コースに分けて開かれた。自分で作ったエコラジオから流れてくる音



夏休業中の8月5日・8

日・9日の3日間、坂戸・鶴ヶ島消防署の救急隊員の方々に講師に招いての普通救命講習が校内で実施された。

今回の講習は保健部と生徒指導部が合同で企画したもので、戸宮グラウンドの新設整備等を契機に、近年その活動の充実が著しい運動部に注目、加えて東日本大震災に係る節電対策の影響等も考慮して、各運動部及び同好会の顧問・コーチ、部長生徒、マネージャーを対象の中心として実施された。講習は、応急手当の重要性についての講義とAED（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生法の実



習からなる3時間のカリキュラムで、猛暑の中、3日間で教員20名、生徒33名が受講、修了証を受けた。

今回の講習を下記に手配して下さった坂戸・鶴ヶ島消防本部の警防課の方のお話

坂戸・鶴ヶ島の人口を合わせると約17万人の人がいます。今まで救命講習を受けた人の総数が1万4000人位、割合は17人に1人となるが、実際は複数回受けた人もいます。受講した人は少なくなります。

今回、講師にきた救急隊の中には、6時20分頃救急出動をし、病院に送り届けた後、8時40分に署に戻り、9時からの講習に間に合うように急いでかけた講師もいました。「24時間勤務の後、こうして講義に来るのは大変ですか？」と聞かれましたが、講習を受けた人達の人数が少ない、救急隊がかけつけるまでに、心肺蘇生ができる人がその場面に遭遇する確率を考えると受講者数を増やしてゆきたい。こうして受講の機会が増えるのは有難いことです。

なお本校AEDの設置場所

は、職員玄関、体育教官室、及び戸宮グラウンド（仮設）の3ヶ所である。



事務室だより

一新本校の イントランス！

平成二二年度・平成二二年度は山村国際高等学校戸宮グラウンドの新設やナイター照明等のグラウンド整備に専念し、施設の充実をはかってきました。昨年度から男子生徒も増加し、サッカー部や野球部などもさらに活発な活動を行っています。また、体育祭や授業も行うことができますようにになりました。皆様のご協力に深く感謝いたします。

たします。

平成二二年度は、学校内の施設整備に重点を置き、改修・改善を行うことにいたしました。

山村国際高等学校のシンボルとも言える体育館二階の円形ドーム通路の屋根の改修をはじめ、A館二階～四階の女子トイレの一部洋式化等の改修、図書室・武道場等の各所雨漏り修繕、体育館ステージ裏のスチール改修を七月～九月にかけて工事いたしました。

そして、震災に対する備えとして、体育館・B館生徒ホール棟の耐震強度診断を八月に実施いたしました。

最小の経費をもって最大の効果を発揮できるよう、今後関係各所と調整して行なっていきます。

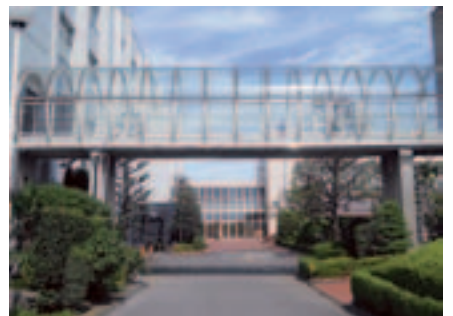


いきますので、継続的な協力のおかげ、よろしくお願いたします。

また、毎年行われている国の就学支援金と埼玉県の授業料等軽減補助事業に関しても、埼玉県に申請をし現在審査中です。補助金の交付決定金額は、国の就学支援金と埼玉県の授業料等軽減補助金の合計した金額を、平成二四年一月中旬に授業料等の引落日等に決定しました。振込期日等が決定しましたら、学校からご通知いたしますのでご了承ください。

ご不明の点やご質問等がございましたらお気軽に事務室までご連絡ください。

山村国際高等学校事務室
電話番号（〇四九―二八一〇二二一）



部活の動き

バトントワリング部

全国高等学校総合文化祭福島大会

埼玉県代表として選出壮行会演技(本大会は東日本大震災のため中止)

関東バトントワリングコンテスト ソロトワール 選手権 準決勝出場 2名

上級 金2名、銀2名
規定演技 上級 金2名

初級 金3名

震災の為、全高総文祭福島大会はマーチングバンドバトントワリング部門は中止となり参加できなかったが、開催できる他部門と共に演技した壮行会では高い評価をいただくことができた。

関東ソロコンテストに於いては、選手権入賞者は出なかったものの2月の大会より大きくポイントを伸ばした。又、大会初出場の5名が全員金賞という成果を出すことができた。

ダンス部

第8回高校生ダンスコンテスト11

2年生チーム優勝

居合道部

埼玉県支部対抗居合道大会

2段の部

優秀賞 山本汐来(1年)

1年生ながら2段をもつ山本汐来君が個人演武で豪快な技を披露し初入賞を果たした。先の県大会でもベスト8に入っており、今後の活躍が楽しみである。

剣道部

西部地区大会 女子団体

ベスト8

関東大会県予選 女子団体

1回戦敗退

関東大会県予選 男子団体

2回戦敗退

インターハイ個人県予選

男子個人

4回戦(ベスト32)高原右京

インターハイ県予選

男子団体

1回戦敗退

インターハイ県予選

女子団体

3回戦敗退

玉竜旗剣道大会 男子団体

高松桜井ー山村国際

大将同士で負け

関東大会県予選、男子団体

は2回戦春日部高校と対戦。

4・1で敗退し連続出場はならなかった。インターハイ予

選では個人で高原右京(藤中)君が4回戦まで勝ち上がる健闘をみせた。女子団体は粘り強い試合展開で3回戦まで勝ち上がった。

男子ソフトテニス部

4月23日(土)

関東大会西部地区予選(個人)

大塚・栗田 4・0 狭山工

1回戦

大塚・栗田 0・4 川越東

2回戦

鶴野・角 4・3 所沢

1回戦

鶴野・角 1・4 川越東

2回戦

松本・小黒 4・0 川越西

2回戦

松本・小黒 0・4 坂戸

3回戦

5月5日(木)

関東大会埼玉県予選(団体)

山村国際 4・1 狭山工

山村国際 0・4 庄和

7月16日(土)

埼玉県選手権1次予選(個人)

大川・西澤 4・1 新座柳瀬

1回戦

大川・西澤 0・4 川越東

2回戦

森・松本 4・0 慶応志木

2回戦

森・松本 0・4 川越

3回戦

大塚・小黒 4・3 飯能南

2回戦

大塚・小黒 2・4 武蔵越生

3回戦

サッカー部

U・18 Wリーグ

2勝2分3敗

U・16 2 A県リーグ

4勝1分5敗(5位)

来年度県リーグ残留決定

女子バスケットボール部

バスケットボール学総大会兼

全国総体西部支部予選

2回戦

バスケットボール西部支部大会

3回戦(西部支部ベスト16)

バスケットボール春季高校選手権大会

1回戦

バスケットボール学総大会兼

全国総体西部支部予選

1回戦

バスケットボール西部支部大会

2回戦

H23年8月11日~12日、山

形県鶴岡市慶應義塾大学先端

生命科学研究所主催第1回高

生物部

校生バイオサミットに参加しました。

残念ながら入賞は逃しましたが、大会の様子は山形新聞HPバイオサミットにてつています。

書道部

平成23年度(第50回記念)

埼玉県硬筆中央展覧会

特選賞

齊藤 舞 (1・1)

優良賞

秋池 栞 (3・3)

原 由紀 (3・3)

山口純奈 (1・4)

小西里加子 (1・4)

須長 憧 (1・4)

高井麻由 (1・2)

第16回埼玉県書道芸術展

推薦賞

原 由紀 (3・3)

特選賞

仲島翔馬 (2・1)

秋池 栞 (3・3)

準特選賞

田口綾乃 (3・2)

関根真知子 (3・3)

齊藤 舞 (1・1)

新保友希 (1・2)

峯岸 舞 (1・2)

古谷春香 (1・2)

平成二十一年度入試 一橋大・九州大に合格

進路指導部

山村国際高校の進路状況

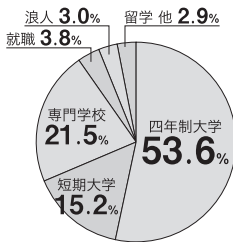
平成18年度、本校の進路指導は四年制大学への合格数と合格校重視へと舵をきった。

「合格数」については、それまで30%台だったものが、18年度から40%台へ、そして18年度入学生が卒業する20年度から50%台へと増加し、22年度は54%へと伸びてきている。卒業生の半数以上が四年制大学へ進学する高校となった。

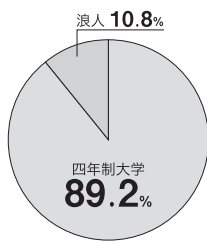
「合格校重視」それは、国立大学と難関私大（早慶上理・マーチ）への合格者を増やすということである。国立大学を受験するには、私立大学の2倍以上の受験科目を必要とするため、挑戦する生徒がなかなか育たなかった。しかし、様々な進路指導と実現に向けた効果的な授業によって国立大学・難関私大への挑戦者が順調に育ってきた。18年度に入学した生徒達が卒業した20年には、国立大学合格者8名（前年0名）、

難関私大16名（前年10名）という結果を残すことが出来た。この挑戦は、次の21年度の生徒たちも引き継いでくれ、国立大学の合格者数は、前年の1.4倍、12名となった。また、21年度は、難関私大につぐ上位大学の合格者が、前年のおよそ2倍に増加した。そして、22年度、国立6名、難関私大11名と数の伸びは見られなかったが、合格先で目覚ましい結果を残すことができた。国立大学では、本校始まって以来の一橋大学・九州大学へ合格。難関私大でも、早稲田大学・東京理科大学・明治大学・立教大学・関西大学などに合格した。「合格校重視」という目標は達成できたと思う。

《全体の進路》



《特別進学コース》



える。
なお、22年度の短大進学者は15%（うち半数は山村学園短大）、専門学校22%、就職・家業従事4%、浪人3%、未定留学その他3%だった。

一三年度の目標は、

（1）職業・資格：上級学校について知る。自分の適性を知る。

現在の日本には、およそ3万種の職業があると言われていて、その全てを理解することは勿論不可能だが、少しでも多くの、また少しでも自分に合った職業に出会うために必要な知識を身につけるための学習を行っている。ホームルームでの進路学習を中心に、学期の終わりや毎月行っている体験授業・模擬授業でそれらの知識を深めて欲しい。
（2）大学の一般受験者・合格者を増やす。

普段の授業が重要な事は言うに及ばず、受験勉強に特化

した土曜セミナーの充実を目指している。受験5教科を中心に32講座を開講している。このセミナーを受講すれば、予備校や塾に行く必要は無いという授業を提供するようにしている。現在、多くの生徒が受講しているが、この受講者数を今以上に増やすことが、一般受験者・合格者を増やすことにつながると確信している。

3学年の動き

放課後の受験特別講座が新たに開講

本校の進路目標のひとつが、「一般受験での大学合格」者を増やすことである。これまで、一般受験といえは「特進クラス」がその対象のように考えられがちであったが、今後は特進以外のクラスの中から一般受験での大学合格者数を伸ばすことを目指して動き出した。

これまでは、土曜セミナーを開講し対応してきたが、今年度は、更に放課後に受験特別講座を開講し、生徒の学力アップに取り組んでいる。春に希望者を募りスタートしたが、現在においても約3分の

2の生徒が真剣に取り組んでくれている。今後、センター試験があり、私大の本番を迎えるわけだが、学力アップと合わせて受験校指導を丁寧に行い、来春には全員が志望校への合格を手にし、合格者数の増加を目指して進んでいる。

就職

今年は震災の影響もあり、就職はかなり厳しい状況といわざるを得ません。そんな中本校では、就職を希望している生徒を中心に4月より就職に向けてのガイダンスを毎週実施してきました。7月には

県主催の合同企業説明会に参加し、さらに夏休みに入ってから以降は、それぞれの生徒が希望する企業への職場見学にも積極的に参加してきました。9月に入ると民間企業を希望している生徒はいよいよ本番の就職試験へと進んでいきます。また警察官や市役所事務といった公務員を希望している生徒は一次試験受験となります。どんなに厳しい現状であっても志を高く持ちチャレンジしていく強い気持ち

を忘れず、希望する進路実現へ繋げていくことを願っております。

放送部 全国大会へ出場

NHK杯 全国放送コンテスト埼玉県大会

テレビドキュメント部門 最優秀賞 獲得

埼玉県大会で最優秀賞

平成23年6月19日、川越市民会館やまぶき会館にて第58回NHK杯全国高校放送コンテスト埼玉県大会が開催された。山村国際高校放送部はテレビドキュメント部門に出場した。

NHK杯高校放送コンテストは放送部の甲子園とよばれる大会であり、山村国際高校放送部も毎年エントリーしているが、これまでは地区予選で敗退という結果であった。そんな中、3年生の房野稚奈、内野睦が中心となって制作した作品「私の家族」は6月12日の予選を通過し、19日の県大会へと進んだ。

19日の県大会では予選を通過した6作品が上映された。「私の家族」は4番目に上映され審査された。上映中、制作者である二人は祈るような姿でスクリーンを見つめていた。その後、結果発表があり「私の家族」は最優秀賞を受賞し、全国大会の出場が決定した。受賞の瞬間、二人は涙を流して喜んだ。撮影や編集に失敗し、何度もやり直した苦労が報われた瞬間だったのだろう。

初の全国大会へ



7月9・10日に全国大会準々決勝が行われ、翌11日にインターネットで準決勝進出作品が発表された。そして山村国際高校は準決勝への出場が決定した。

7月27日、国立オリンピックセンターにて準決勝、28日にNHKホールにて決勝が行われ、「私の家族」は入選という結果で全国大会を終えた。大会が終わり房野は「受賞できたことも嬉しいが、たくさんの方と声をかけてもらえたことが嬉しかった」と答え、内野は「多くの方に支えられ、この作品を作ることができたと思うので感謝したい」と答えた。

で番組を作ることができる。今回の作品も多くの生徒、先生方に協力していただいたこととここまでの結果を残すことができた。

最後に:

制作に関わっていた生徒の皆さん、挫けそうになった二人を暖かく励ましてくださった先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

「私の家族」について

高島杏奈さん(3年)のご両親は耳が聞こえません。高島さんはご両親について昨年の校内弁論大会で発表をしました。

番組ではご両親の出産・子育てでの苦労、娘を想う気持ち、そして高島さんの両親に感謝する気持ちを紹介している。

「お父さん、お母さん、私を生んでくれてありがとう」と手話を使って弁論大会で発表するシーンで終わる番組からは高島さんの家族の暖かさが伝わってくる。

撮影・編集 房野 稚奈
キャスト 内野 睦
高島 杏奈
高島 豊
高島 佳子

国際ソロプチミスト
アメリカ日本 東リ
ジョン主催 第7回
東日本リジョン・
ユース・フォーラム

2011

年8月21日
(日)に国
連大学ウ・
タント国際
会議場にお
いて3年6
組 落合麻



帆さんが出席しました。去る6月18日(土)川越蓮馨寺において国際連合「ミレニアム開発目標」(MDGs)8つの「ゴール」について考えるテーマから落合さんは「Eradicate Extreme Poverty and Hunger」のタイトルで英語論文を発表し、国際ソロプチミスト埼玉で最優秀賞論文賞を受賞しました。最優秀賞の高校生、1都8県108名が集まり、自分の論文を基にグループディスカッションを行い、「何ができるのか」を発表し合いました。今後、日本のリーダーシップを育成することを目的としたこの会議に参加したことから、「世界的一員として」今後の活躍が期待されました。